



ファッションの ちょっと・ウンチク フラワーホール

男性のビジネスウェアといえば、スーツということになります。その起源には、騎士の装う服という説があり、ジャケットの裾のベントといわれる切り込みは乗馬の裾裁きのためということです。ですから紳士服には騎士道精神が反映されているということです。確かに、ネクタイを締めてスーツを着れば、身も心も引き締まった気になります。騎士に由来する紳士服には、その構造にも多くの意味があります。



今回は、ジャケットの左衿（ラベル）にある穴についてご紹介しましょう。一般には、所属する企業の社章などを挿しています。

この穴は、英語ではflower hole（フラワーホール）といい、本来花を挿す穴という意味です。胸に花を挿すのは、対面する人に対するおもてなしの心を表すということです。花を贈られると嬉しいものですが、その気持ちを込めた紳士のマナーとして、服装で表しているということになります。

絵画の中の洗濯風景

ドライクリーニング以前の部分洗い



1800年代という解説のあるしみ抜き風景

この絵の解説は、ドイツのビルクハウスという歴史的建造物の資料として紹介されています。

これによると、この絵画は1800年代のしみ抜き風景ということです。このしみ抜きには、天然の有機溶剤の一種であるテレピン油が使われていました。有機溶剤は、衣類に油脂汚れが染みついても溶かして落とすことができます。

テレピン油は松科の植物の松脂（マツヤニ）を蒸留して得られる有機溶剤で、油絵の具の溶液としても昔から使われていました。

この絵では、二人の職人が、フロックコートを着た紳士を椅子に座らせたまま作業しています。この頃までテレピン油は高価で、漬け込んで洗うことができなかったため、汚れのひどい部分だけを着たまゝの状態でしみ抜きをしていたものと思われる。

その後、1820年代になって鯨油が大量に生産されるようになり、低価格化したテレピン油を使ってドライクリーニングするという技術が開発されることになり、現代の合成溶剤によるドライクリーニングへと発展していきました。

HomeDry News

ホームドライニュース No.121



生成AIによる季節の画像

●絵画の中の洗濯風景:

ドライクリーニング以前の部分洗い

●ファッションちょっと・ウンチク: フラワーホール

●繊維と服飾の物語:

カビの発生に注意しましょう!

●なるほど納得! 衣生活の知恵

シャープなラインがその人の印象に残ります



まごころクリーニング

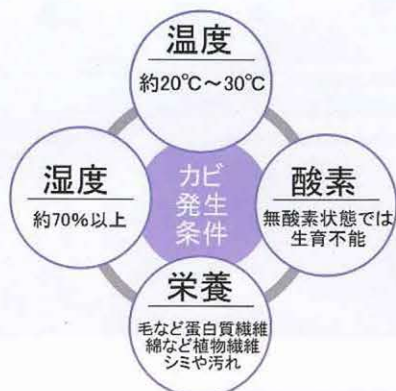
繊維と服飾の物語



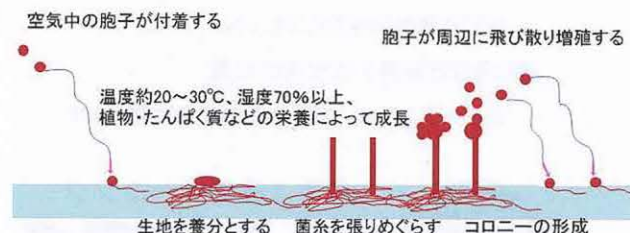
特に綿製品の保管中には カビの発生に注意しましょう！

養分を吸収して成長する真菌類であるカビの種類は約70,000種類以上もあるといわれており、日常的に空气中に浮遊しています。

特に湿気と気温が高くなる梅雨の時期には、繁殖が活発になります。



ほとんどの真菌類は、①温度20℃～30℃、②湿度70%以上、③酸素、④栄養（動物タンパク、植物繊維素など）の条件が整えば、どんなところでも活発に繁殖するといわれています。



カビは、栄養になる毛繊維や綿繊維などに酵素を出して分解し、養分として吸収して成長します。

特に綿のコートやジャケットに発生しやすいですから、ポリ袋を掛けたままなど湿気のたまりやすい状態にしておけば、クリーニング後であろうと、繁殖し染料を分解して脱色事故になったりする場合があります。

【カビ対策】

- ①除湿剤を利用する
- ②乾燥した日にクローゼット内を換気する
- ③詰め込みすぎない。
- ④通気性のあるカバーを使う
- ⑤寝具などは下にスノコを敷いて置く
- ⑥繊維製品を汚れが付いたまま保管しない！

カビが発生した場合は、クリーニングでカビの色は落とすことはできますが、既にカビが生地に与えてしまったダメージを修復することはできません。

カビによる繊維製品の事故は、脱色、着色、損傷といった現象を引き起こします。脱色事故については、カビ菌が成長する際に養分となる繊維を分解吸収するために発する酵素によって、染料が分解するのではないかと推定されています。



上の写真は、綿100%のスカートですが、左上のように一見カビの繁殖は見えにくく、いくらか黄味がかって見えるだけです。しかし、紫外線を照射すると大量のカビが発生していることがわかります。



シャープなラインが その人の印象に残ります

繊維製品の外観は、仕上がった時には、プレスによって最も美しい形につくられています。

繊維は本来の形をねじって糸にし、織ったり編んだりすることによって生地になります。またこの生地を折り曲げて縫い合わせることで立体的な衣類は出来上がります。そして、最後の仕上げに生地にアイロンをかけて平滑にして光沢がでます。プレスによって全体の形が整えられて仕上がるというわけです。



繊維は、元の形に戻ろうとする性質があります。ですから、着ていない時でも少しずつ形のラインは崩れていきます。特に着用しているときは、体の動きによって変形しやすくなります。毎日少しずつ変形しますから、あまり気にならないかもしれませんが、新品の時とはすっかりイメージが変わっているはず。クリーニングは、汚れを落とすだけでなく、シャープなラインも復元します。